

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：34602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370409

研究課題名(和文) 中国における音楽物語伝承研究—『太平広記』を題材として

研究課題名(英文) Research on the Traditional Music Story of China as Found as a Theme in the Taiping Guangji.

研究代表者

中 純子 (NAKA, Junko)

天理大学・国際学部・教授

研究者番号：00248189

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は以下の四点である。第一点は、『太平広記』を中心として、宋代初期までに伝承されてきた音楽に関する逸話についての検討を行い、『太平広記』巻203～205の訳注を作成し、その成果の一部を公表した。第二点は、音の不可思議な現象を記述した逸話に対する唐・宋間の知識人の認識の隔たり、中国音楽物語の日本への流伝の可能性などについて学会発表を行った。第三点は、音楽にまつわる唐宋の詩文についての検討を深め、論文を作成し公表した。第四点は、中国音楽物語を一般に向けて解説するため、講演会を開いた。

研究成果の概要(英文)：The results of this present study are the following four points. First is the undertaking of an examination of the anecdotes related to the music that has been transmitted up to early Song period centered on the Taiping guangji and to create a translation with notes of vol. 203-205 of the Taiping guangji and to give a presentation of part of these results. Second, to describe the disparity in perception between the intellectual of Tang and Song period in regards to the anecdotes that describe the mysterious phenomenon of sound, and to present at a conference the possibility of influence of the Chinese music story on Japan. Third, to deepen the research on the poetic sentences of the Tang-Song periods concerning music, and to create and present a treatise on this research. Fourth, to hold lectures to deepen the understanding of the ordinary public towards the Chinese music story.

研究分野：中国文学

キーワード：太平広記 音楽物語

1. 研究開始当初の背景

『太平広記』は、太平興国二年(977)に皇帝(太宗)の命により編纂され、漢代から宋初までの道教・仏教関連の物語や、正統な歴史の範疇に属さない史料を多く含んだ五百巻におよぶ一大巨編である。そのなかで中国音楽にまつわる物語(主として巻203~巻205)は、中国詩文にも多く引用されている。その詳細な分析と訳注の作成は、音楽を詠じた詩文の解説、延いては中国音楽文化の理解に資すると考えて、本研究に着手した。

また、音楽に関わる物語が、どのような変遷を辿って伝承されて来たのか、さらにそれが日本へも伝えられて、どのような影響をもたらしたのか。これまでそうした視点での検討は多くはなされていない。それゆえに、『太平広記』に収録された物語の検討を行うことは、日本音楽物語研究と中国音楽物語研究をつなぎ、日本音楽物語研究のさらなる深化に結びつくとの考えが、本研究の背景にはある。

本研究は、研究代表者である中 純子関わった、以下の科学研究費助成事業による研究を土台とし、その成果を踏まえたうえで、主として唐宋の音楽にまつわる物語に関する分析をさらに進めたものである。

『唐代音楽の文献学的研究』(平成12~13年度 課題番号 12610471 研究代表者 齋藤 茂)における唐の南卓『羯鼓録』・段安節『楽府雜録』の訳注作成およびその資料分析

『宋代文献資料による唐代音楽の研究』(平成14~15年度 課題番号 14510498 研究代表者 中 純子)における宋の王灼『碧鷄漫志』の訳注作成およびその資料分析

『陳暘『楽書』の研究』(平成16~18年度 課題番号 16520221 研究代表者 中 純子)における『楽書』の訳注作成およびその資料分析

2. 研究の目的

本研究の目的は、『太平広記』楽部を中心として、中国の音楽物語の詳細な分析を行うことにある。それが、唐宋時期の音楽にまつわる詩文のより鮮明な理解と、日本への中国音楽物語伝播のより深い考察を可能にすると考えている。この研究目的を達成するための課題を、具体的に以下のように列記しておく。

- (1) 『太平広記』に収録された音楽にまつわる物語を原資料および周辺の関連資料により補足し、音楽物語形成のありかたを考察する。
- (2) 『太平広記』は、全体的に不可思議な現象を記した物語が多く収録されている。音楽に関してもその傾向があり、奇怪な音の現象についての捉え方について、唐代以前・唐代初期・唐代中晩期・それ以降の物語をそれぞれ分析することにより、時代による差異を究明する。それに関連して、唐代と宋代の文人の音楽に対する捉え方、詩文のなかの音楽描写を、代表的な文人士大夫を取り上げて分析考察する。
- (3) 『太平広記』は日本にも早くから伝わっていたことが確認されている。そのなかの音楽にまつわる物語を取り上げて、日本の音楽物語形成への影響の糸口を探る。確かにわが国における日本音楽説話や日本音楽物語の研究は盛んであるが、それに関わる、あるいは類似した中国音楽物語の研究は、まだあまり蓄積されていない。そのために、これからの中国音楽物語と日本音楽物語との比較、分析を行うための基礎を形成する。
- (4) 中国音楽にまつわる物語について、広く一般向けに丁寧な解説し、日本国内での中国音楽文化への関心を高めていく。

3. 研究の方法

- (1) 版本調査
資料分析の前提として、国立国会図書館・静嘉堂文庫などの『太平広記』の版本調査を行った。また張國風『太平広記會校』(北京燕山出版社 2011年)を活用した。
- (2) 訳注検討・作成
連携研究者と定期的な研究会を持ち、研究発表を行い、それぞれに検討を加えたうえで、『太平広記』の訳注を作

成した。その際に、本研究の研究費用で購入した『四庫全書』の検索ソフトを大いに活用して、広範囲の資料を検討対象にした。

- (3) 天理図書館などの資料調査
日本の江戸時代の文献などの分析について図書館の文献取り扱いの専門家からレクチャーしていただき、関連資料の分析のありかたを検討した。
- (4) 唐・宋の詩人の音楽に関する認識を分析するために、関連する詩・詞および文を検討した。

4. 研究成果

- (1) 『太平広記』楽部の訳注作成

天理大学中国文化研究会編『中国文化研究』30・31・32号(2014年・2015年・2016年)に、『太平広記』巻203についての訳注を連携研究者の弘岡香織氏との共著として掲載した。それによって、本研究の目的とする(1)音楽物語形成のありかた、(3)日本音楽への影響の可能性を究明する糸口が明らかになりつつある。また、紙面の都合で掲載できなかった部分についても、これから順次掲載していく。

- (2) 学会発表

東方学会シンポジウム(2015/11/6)中純子「中国における音の怪『太平広記』を手懸りとして」唐代・宋代の音の不可思議な現象についての対応の違い、また日本への伝播についての研究成果を公表した。本研究の目的(2)音楽にまつわる不可思議な現象に対する唐・宋の差異を考え、(3)日本音楽物語への影響を考える一つの端緒を得た。

天理大学中国文化研究会公開研究会(2015/1/14)「中晩唐における胡楽の中国化」隋唐から宋における音楽文化のありかたを、胡楽の流入という視点から解説し、本研究の目的(4)広く一般に向けて中国音楽物語の特徴を示し、本研究によって得た知見を共有した。

- (3) 論文

弘岡香織「唐代の大puと「于wei」の歌」(『学芸国語国文学』(松岡榮志教授退職記念号)第48号平成28年3月15日発行)『太平広記』の記事を用いて、これまで解明できなかった唐代音楽にまつわる唐詩の一側面を捉えることが

できた。音楽文化を考察することで、これまで理解が困難であった音楽を詠じた唐詩をより鮮明に解読するという本研究の目的(2)を達成したものである。

中 純子「蘇軾と音楽」(『橄欖』第20号)宋代文人が音楽文化をどのように分析し、享受していたのかを考察した。唐代・宋代の文人と音楽のありかたの違いを明らかにする基礎的研究であり、本研究の目的(2)の一つの成果である。

中 純子「詩賦が織り成す中国音楽世界」(勉誠出版『アジア遊学』掲載予定)漢代から唐代・宋代に渡り、詩賦によってこそ創造される音楽世界があることを論じ、中国音楽世界の側面を描き出した。音楽文化を理解することによって、詩文をより鮮明に解読する本研究の目的(2)を達成した一つの例である。

- (4) その他

天理大学公開講座(2013/10/5)「唐代音楽物語」『太平広記』を中心とした唐代の音楽に関する逸話を一般に向けて紹介し、日本と中国に相違についての講演を行なった。これは本研究の目的(4)の成果の一つである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6 件)

中 純子「詩賦が織り成す中国音楽世界 洞簫という楽器をめぐる」勉誠出版『アジア遊学』2017年 査読無、掲載予定のため頁数・出版月など未定

弘岡香織「唐代の大puと「于wei」の歌」『学芸国語国文学』(松岡榮志教授退職記念号)査読無、第48号 2016年3月 93頁~102頁

中 純子・弘岡香織「『太平広記』楽部訳注稿(3)」天理大学中国文化研究会『中国文化研究』査読無、第32号 2016年3月 127頁~146頁

中 純子「蘇軾と音楽 黄州流謫期における音楽への思索」『橄欖』査読無、第20号 2016年3月 99頁~117頁

中 純子・弘岡香織「『太平広記』楽部訳注稿(2)」天理大学中国文化研究会『中国文化研究』査読無、第31号 2015年3月 31頁~56頁

中 純子・弘岡香織『『太平広記』楽部
訳注稿(1)』天理大学中国文化研究会
『中国文化研究』査読無、第30号 2014
年3月 113頁～131頁

連携研究者 弘岡香織氏は「幸福香織」と
いう氏名で論文を公表されている。

【学会発表】(計 2 件)

東方学会シンポジウム「中国の音楽文化」
(2015/11/6) 於 日本教育会館
中 純子「中国における音の怪
『太平広記』を手懸りとして」

天理大学中国文化研究会公開研究会
(2015/1/14) 於 天理大学
中 純子「中晩唐における胡楽の中国化」

【図書】(計 0 件)

【産業財産権】

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

【その他】

ホームページ等 特になし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中 純子 (NAKA, Junko)
天理大学国際学部・教授
研究者番号：00248189

(2) 研究分担者

該当者無し

(3) 連携研究者

弘岡香織 (HIROOKA, Kaori)
近畿大学工学部・准教授
研究者番号：10298987